

# 山鹿中央病院が 担う役割について

令和 5 年 9 月 5 日  
山鹿中央病院

# 1 現状と課題

## 基本理念

医療・福祉を通して社会に貢献しよう

## 基本方針

- ・ 十分な医療情報提供を行い、患者様の権利を尊重します
- ・ 安全の確保とサービスの向上に努めます
- ・ 医療、看護、介護の内容・質の向上に努めます
- ・ ニーズに合った保健・医療・福祉を実践し、地域に信頼される病院になります
- ・ 働きがいのある健全な職場を創造します

# 1 現状と課題

## 基礎情報

**病床数 120床**

- 〈一般病棟 60床〉
  - ・急性期一般入院料 6 (45床)
  - ・地域包括ケア入院医療管理料1 (15床)
- 〈療養病棟 60床〉
  - ・療養病棟入院料 1 (38床)
  - ・回復期リハビリテーション病棟入院料 3 (22床)

## 主な病院機能

救急告示病院、二次救急医療機関、更生医療指定医療機関、肝炎治療実施医療機関、自立支援医療機関（更生、育成、精神）、脳卒中急性期拠点病院、脳卒中回復期医療機関

## 主な在宅機能等

指定居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、訪問看護ステーション・サテライト(鹿北町)、訪問介護ステーション、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション  
サービス付き高齢者向け住宅、在宅療養支援診療所(19床、透析35床)

## 主な施設基準

救急医療管理加算、救急搬送看護体制加算、緩和ケア診療加算、緩和ケア外来管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、在宅がん医療総合診療料、在宅療養支援病院、認知症ケア加算、入退院支援加算、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、せん妄ハイリスク患者ケア加算、在宅酸素療法指導管理料、人工腎臓、地域包括診療料、冠動脈CT撮影加算、認知症ケア加算、歩行運動処置(ロボットスーツ)、糖尿病透析予防指導管理料、肝炎インターフェロン治療計画料、運動器リハ、呼吸器リハ、脳血管疾患等リハ、心大血管疾患リハ、その他

# 1 現状と課題

## 基礎情報

### 診療科目 16科

内科、脳神経内科、脳神経外科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科、血液内科、リウマチ科、皮膚科、形成外科、心療内科、アレルギー科、放射線科、リハビリテーション科、（他に、人工透析、もの忘れ外来、禁煙外来、ボツリヌス療法、女性専門外来）

### 職員数 300名（常勤換算 R5.7.1現在）

職種	常勤	非常勤	職種	常勤	非常勤	職種	常勤	非常勤
医師	14	16	臨床検査技師	8	2	管理栄養士	4	0
薬剤師	5	2	診療放射線技師	5	0	社会福祉士	4	0
看護師	65	12	臨床工学技士	7	0	医師事務補助者	7	0
准看護師	16	7	理学療法士	10	0	介護支援専門員	5	0
保健師	4	0	作業療法士	6	0	訪問介護員	4	3
介護福祉士等	18	10	言語聴覚士	3	0	事務員・その他	48	15

# 1 現状と課題

## 主な診療実績（令和4年度）

項目	
外来患者延べ数	61,948人
入院患者延べ数	36,453人
病床稼働率	83.2%
平均在院日数（一般病床）	20.7日
救急患者受入数	1,274人
人間ドック件数	321人
特定健診等	4,277人
巡回健診	806人
<b>新型コロナウイルス感染症</b>	
発熱外来受診者数	3,796人
入院患者延べ数	1,067人
ワクチン接種者数	5,133人

# 1 現状と課題

## 1. 関係機関との連携強化

急性期一般、地域包括ケア、回復期、医療療養病床を有してありますが、より多くの患者情報を得るためオンラインなどのIT技術を活用しながら、スムーズな連携・調整を図ります。

## 2. 在宅医療の充実

特に難病患者を中心として、看取りにも力を入れています。しかし、医師不足や住民への在宅医療に関する情報提供が未だ不十分だと感じており、より一層の地域住民への周知を図る必要があります。今後益々、在宅医療の流れが進む中で、在宅療養支援病院としての役割を十分に果たしていくことが必要と考えています。

## 3. 病棟再編

当院は、移転して24年を迎えました。この間、診療報酬改定など経営方針に沿った地域医療への取り組みを行ってきました。病院建物の狭隘もあり難しい部分もありますが、患者への十分な療養環境の提供に必要な病棟の整備を進めます。

# 1 現状と課題

## 4. 当院が担う政策医療（5疾病5事業及び在宅医療に関する事項）

がん	特に消化器内視鏡による早期がんの治療(ESD)に取り組んでいます。また血液がんについては専門医の配置とともに他院との連携を図っています。今後、その他のがんへの対応を充実させていきます。
脳卒中	一次脳卒中センターとして専門医(内科・外科)による脳卒中診療、脳梗塞の治療(t-PA)に取り組んでいます。医師不足により夜間休日の受入体制が十分とは言えません。
急性心筋梗塞	専門医が在籍しており、画像診断装置による早期診断への体制を整えています。カテーテル治療は行っていません。
糖尿病	専門医が在籍しており、糖尿病治療、透析予防に力を入れています。患者の増加や高齢化もあり、更なる専門医の充実が課題です。
精神疾患	認知症サポート医・認定看護師が在籍しており、認知症診療を行っています。山鹿市の認知症初期集中支援チームにも協力しています。

# 1 現状と課題

## 4. 当院が担う政策医療（5疾病5事業及び在宅医療に関する事項） 5事業のうち主に2事業を行っています。

救急医療	24時間365日、救急告示医療機関として積極的な受入れに取り組んでいます。疾患によっては当直医の専門外による対応困難事例もあり、総合医の確保が望まれます。
災害時における医療	透析では災害時対策を進め、熊本地震の際には被災病院の透析患者の受入れを行いました。地域災害医療コーディネーターおよびJMATを派遣し、被災地域の保健医療活動に協力すると共に、透析患者を含めた被災患者を最大限受け入れます。
へき地医療	—
周産期医療	—
小児医療	—
〈その他〉	
在宅医療	訪問看護ステーション（24時間）、鹿北サテライトの2か所の運用と病院の訪問診療・看護の提供により通院困難な患者へのサービスを提供しています。また、他事業所との連携を深め、在宅サービス提供の充実に努めています。

# 2 今後の方針

## 【地域において今後担うべき役割】

当院は、救急告示病院として急性期から回復期、慢性期の治療に必要な機能の維持・向上を図ってきました。地域住民の健康を支えるために幅広い診療科目を提供し、診断・治療・リハビリテーションなどのサービスを総合的に提供します。また、地域のニーズに応じて、予防医療や健康教育などの取り組みを行い、住民の健康促進を支援します。更に災害時や緊急事態においては、地域の医療ニーズに対応しながら、安全で質の高い医療を提供することを目指します。

### 1. 新型コロナウイルス感染症

引き続き、発熱外来を設置して診療・検査医療機関としての役割を継続します。また、入院病床4床(軽症・中等症)を維持します。但し、精神疾患や重度の精神行動障害を有する認知症患者の受け入れは困難であり課題があります。

### 2. 急性期医療

当圏域の救急医療の一役を担うべく、救急受け入れに関して断らない医療を推進します。また、在宅療養支援病院として連携医療機関との協力体制の強化、後方支援の役割を果たします。

### 3. 在宅医療の充実

在宅医療の体制強化を進め、医療従事者の育成と拡充を図ります。他医療機関のかかりつけ医との連携強化、医療従事者の負担軽減を図っていきます。

## 2 今後の方針

### 4. 脳卒中

当圏域における死亡率が高く、早期発見や予防・改善に向けた取り組みが必要です。当院には専門医が在籍しており、関係機関との連携を図りながら機能の充実を進めていきます。

### 5. 難病

関係機関との連携や情報共有を通じて、患者への継続的な支援を提供します。定期的なフォローアップ、リハビリテーション、病気の進行に応じた調整など患者・家族の身体的・精神的な負担を軽減し、支える体制の充実に努めます。

### 6. 糖尿病

糖尿病治療、透析予防への充実を図ります。糖尿病リスクのある人に対して生活習慣改善や食事指導、適度な運動などの予防策を提供し、病気の発症を予防する取り組みを行い早期予防と教育に努めます。また、医師、看護師、薬剤師などとの緊密な連携を図り、患者に対する総合的なフォローアップに努めます。

### 7. 人材育成と活用

地域医療の質の向上を目指し、認定看護師(感染、認知症、緩和ケア)を育成し、地域活動を積極的に行うなど今後も取り組んでいきます。また、新たな専門領域への拡充に努めていきます。

# 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	0	0	
急性期	60 (地域包括ケア病床15床含む)	60 (地域包括ケア病床15床含む)	
回復期	22	22	
慢性期	38	38	
その他	0	0	
合計	120	120	

# 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

今後もこれまで同様の医療体制を維持しつつ、各機能に応じた役割の強化を進めます。

# 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年5月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、脳神経内科、脳神経外科、 消化器内科、糖尿病内科、循環 器内科、血液内科、呼吸器内科、 腎臓内科、心療内科、皮膚科、 形成外科、アレルギー科、リウ マチ科、放射線科、リハビリ テーション科	現状維持	救急医療及び地域医療の体制 を維持するために必要
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	—	—

# 3 具体的な計画

## (2) 数値目標

	現時点(令和5年5月時点)	2025年
①病床稼働率	83.2%	91.7%
②紹介率	13.6%	20.0%
③逆紹介率	39.8%	42.0%

# 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取り組みと課題

### 【取り組みと課題】

#### 1. 救急医療体制の充実

- 医療機器・設備の高機能化（IT化）への更新検討と維持コスト面の課題
- 救急医療を担える医師及び看護師等の確保と質の向上
- 建物増改築における事業計画の推進

#### 2. 在宅医療の充実

- 訪問診療を担う医師とスタッフ、必要な設備や医療機器の確保
- 患者、家族、在宅医療チームなど複数の関係者とのコミュニケーションと調整
- 緊急事態発生時に迅速かつ効果的な対応を行うための体制整備
- 在宅看取りでの家族に対する適切なサポート（情報提供、感情的なサポート、看取りのプロセスの説明など）を行い、安心して看取りを経験できるような支援体制の充実

#### 3. 医師の働き方改革

- 働きやすい職場環境の更なる充実
  - ・医師事務作業補助者やコメディカルへのタスクシフト／シェアの更なる充実
  - ・IT化（AI問診など）による業務効率化の推進
  - ・人材確保と人材の有効な活用